

「水道水が飲めない街」上海

水は日常生活に欠かせないものです。飲み水はもちろんですが、料理、洗濯、お風呂…など、水を使う場面はたくさんあります。日本では蛇口をひねればきれいな水が出てきて、そのまま飲んでも、料理に使っても、洗濯に使っても、何の問題もありません。ところが、海外に行くとそうはいきません。蛇口をひねって出てきた水が、そのまま使えないこともあります。

「水道水が飲めない街」というタイトルにしましたが、水道水がそのまま飲める国は世界で11か国しかないそうです（国数は諸説あります）。逆にいえば、多くの国では水道水をそのまま飲むことはできないということになります。

中国はどうかといいますと、残念ながら水道水をそのまま飲むことはできません。それでも、ここ数年でだいぶ改善されているようで、以前は湯船に溜めたお湯が茶色になるとか、洗濯物に色が着いてしまうということもあったそうですが、最近はそのようなことは無くなってきたといいます。私の住んでいるマンションの部屋でも、湯船に溜めたお湯に色が着いているということはありません。ただ、それは浄水器のおかげかも知れません。

私の部屋につながる配水管には、長さ70センチくらいの浄水器が4本接続されています。2本が冷水用、2本が温水用です。これを3か月に1回交換します。この浄水器の大きさにも驚きましたが、この大きな浄水器を使用しても、そのまま飲むのは難しいということにも驚きました。その理由は、管理会社によると衛生的な問題ではなく、「おいしくないから」とのことでした。このまま飲んでもおいしくないし、料理に使うと水の味が付いてしまうため、通常飲み水や料理に使用する水は購入しているそうです。確かに蛇口から水を流していると、日本ではあまり嗅いだ事のない臭いがしますので、ちょっと飲む気になりません。管理会社にお願ひして、家庭用のウォーターサーバーを設置してもらいました。

中国の水道水が飲めない理由は大きく分けて2つあり、水源の汚染と水道管の劣化です。このうち、水源の問題については、上海市は採水地を変えることでほぼ解決しています。問題は水道管です。上海の水道管は古いものが多く、新しいものと交換する工事が追いついていないそうです。浄水場は最新の設備で、高度浄水処理が行われているので、浄水場から出たすぐの水はきれいなのですが、水道管を通過して各家庭の蛇口に届くまでに飲めない水になってしまうようです。

このような水道事情のためか、上海では水の配達サービスが充実しています。電話や Web で注文すれば、1時間程度で配達してくれます。水と一緒に食品や生活用品を扱っているお店もあって、全部まとめて配達してくれるのでとても便利です。私もこの配達サービスを利用して、飲み水を確保しています。

上海の街を歩いていると、ウォーターサーバー用のボトルをリヤカーに大量に積んで、自転車で引っ張っている人を見かけます。おそらく水の配達の途中なのだと思いますが、高層ビルが立ち並ぶ間を、水ボトルを大量に積んだリヤカーを引く自転車が走っていくという光景は、上海ならではのものかも知れません。



JETRO 上海事務所 山口 潤
(相模原市産業・雇用政策課)